

2021 年度事業報告（全国川ごみネットワーク）

1. 全国水辺のごみ調査「水辺のごみ見つけ！」の実施

- ・水辺のごみの散乱状況を調査し、ごみの散乱防止対策に役立てることを目的に、継続し(6年目)、全国規模でのごみ調査「水辺のごみ見つけ！」を4月～11月の期間で実施した。
- ・実施にあたっては、全国水環境マップ実行委員会を通じ、「身近な水環境の全国一斉調査」実施団体者(約800)に前年度の報告付のパンフレットを配布した。他にも、募集用チラシ(700部)を制作・印刷・配布して参加呼びかけをした。

調査参加者にオンライン交流会への参加を呼びかけ、参加された方と情報交換を行った。

- ・水辺のごみ拾い活動に参加し、ごみ分別の説明、補助等を行い、ごみ調査の広報啓発を行った(三重県吉崎海岸(10/3)、荒川(11/27))。



写真2 吉崎海岸での清掃活動(10/3)



写真3 荒川での清掃活動(11/27)



写真1 募集チラシ

- ・長引くコロナ禍によって、大規模な活動を中止とした団体が多かったが、逆に個人や少人数での取り組みが増えるなどして、調査件数は前年比1.8倍の701件(その他、まち10件)の報告を受けた。調査結果をとりまとめ、集計して公表した(ペットボトル27,843本、レジ袋6,076枚、カップ型飲料容器2,331個)。昨年比で調査件数、調査距離、ペットボトル数、カップ型飲料容器数ともに増加しているのに関わらず、レジ袋だけは減少傾向がみられたという興味深い結果を得た。

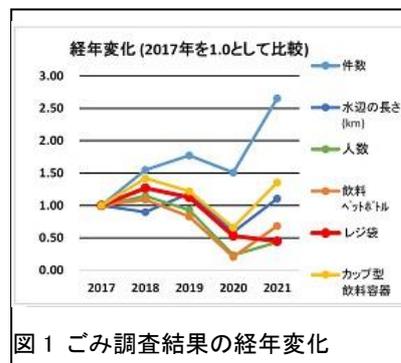


図1 ごみ調査結果の経年変化

- ・結果を調査報告パンフレットにまとめ、調査参加者などへフィードバックするとともに、次年度の調査参加を促すよう配布した。
- ・調査結果は、PET ボトルリサイクル推進協議会、全国清涼飲料連合会、プラスチック工業連盟、プラスチック循環利用協会等を訪問し共有した。

2. 川ごみサミットの開催

- ・12月19日(日)に、都内の全水道会館において、オンライン併用で第7回川ごみサミットを開催した。今回は、「市民と河川管理者が協働で川ごみ対策に取り組むために～川ごみ対策事例集と川ごみマップの活用～」をテーマとした。国土交通省9地方の河川管理者にリレートークで



写真4 第7回川ごみサミット

発表いただき、参加者共に意見交換を行った。

- ・オンライン併用により、遠方の方、これまであまり交流の無かった方々にもたくさんご参加いただいた。当日参加の申込者 98 名、後日録画視聴希望者 15 名。
- ・初めて国土交通省の後援を受け開催した。

3. 川ごみ削減の普及啓発

①プラごみ削減普及プロジェクト

- ・7/14、11/11、2/28 に検討会を開催し、プラスチックごみ削減のための普及啓発ツールや教材作成についての検討を行った。この中で、川ごみ削減啓発のポイントブックを(2022 年度に)作成することを目指した検討を始めた。
- ・10/3 吉崎海岸清掃(三重県)、11/28 SDGs 木曾川流域の地産地消を楽しむ会の学習会(愛知県)で啓発ツールを活用した説明を行った。
- ・前年度作成したごみ実物ボードの送付用木箱を作成し、宅配便などで貸出して活用できるように準備をした。



②出前授業の実施

- ・前年度のアンケートで希望があった小学校他、依頼を受けた小中学校など、8校において出前授業を実施した。身近なものが川や湖のごみ、やがては海ごみとなってしまふことなどを伝え、子どもたちがごみを出さないために自分ができることを考えた。実施にあたっては可能な限り地域の活動団体・活動者の協力を受けた。

	日程		学年	児童数	清掃活動
1	5/14(金)	志木市立宗岡第三小学校	4年生	70	なし
2	7/2(金)	江戸川区立篠崎第三小学校	6年生	78	延期(別日に実施)
3	8/31(火)	杉並区立井荻小学校	6年生	55	有(善福寺川)
4	10/15(金)	非公開希望私立小学校	5年生	38	有(多摩川)
5	10/21(木)	葛飾区立宝木塚小学校	4年生	96	有(荒川)
6	10/14(木)	墨田区立二葉小学校	5年生	112	なし
7	1/17(月)	墨田区立菊川小学校	5年生	70	なし
8	7/2,8,9	岡谷市立岡谷南部中学校	3年生	14	有(諏訪湖)

- ・その他、10/24(日) 岡谷こどもエコクラブ(小学1~6年生) 18名、保護者13名対象にごみ拾いと学習を実施した。



4. 川ごみ対策の推進に向けた情報収集・情報発信・普及啓発

- 行政の川ごみ、海ごみ対策とも連動した NGO の働きかけ推進を目指した。4 月 15 日には、東京ボランティア市民活動センター会議室において、外部関係者を招き、川ごみ対策の NGO の役割に関する検討会をオンライン併用で開催した。国土交通省河川環境課からもオブザーバーとして参加いただいた。出席者 16 名。
- 減プラスチックの社会を実現する NGO ネットワークの構成団体として、市民団体等が連携し、6 月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」成立に際しての NGO 共同提言、1 月に政府のプラごみ対策新法政省令に対しての共同提言を環境大臣、経済産業大臣あてに策定し発表した。
- 板橋区立リサイクルプラザ、国土交通大学校、日本野鳥の会、山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト、九州河川協力団体連絡会議等、計 12 回のオンラインを含むイベント等で講師や話題提供発表等を行い、川ごみ削減の普及啓発、全国水辺のごみ調査の協力依頼などを積極的に行った。
- ホームページ、Facebook を随時更新し、情報を発信した。

5. 組織運営

- 4 月 22 日(木)に理事会を開催し、事業計画、予算等について検討した。
その他毎月の理事・監事ミーティング、および随時 E メールにおいて各種事業の企画運営等を検討し、進捗等を確認した。
- 会員間の情報交換・交流の場として、8/1(日)、10/13(水)、2/26(土)にオンライン交流会（テーマに応じて会員以外からも参加）を開催した。全国水辺のごみ調査参加者、川ごみサミット参加者などにもご案内し、それぞれ 16 名、18 名、21 名が参加し、情報提供・情報交換などをおこなった。
- 全国水辺のごみ調査報告者へ入会をお誘いするなど年間を通じ広く会員を募集した。年度内に、正会員 5 団体・5 個人、賛同会員 12 団体・8 個人（計 17 団体・13 個人）がそれぞれ新たに入会し、3 月 31 日時点の会員数は 78 と大幅に増加した（正会員 30 団体・18 個人、賛同会員 19 団体・11 個人）。